

令和7年産『^み ^の **耳納連山れんげ米**』づくり基準

(田主丸町耳納山麓水系地帯)

重点事項

1. 健全な苗づくり
2. 健康な土づくり
3. 安全な米づくり
4. おいしい米づくり
5. 安定した米づくり
- ①種子更新100% ②うす播き（催芽粉1合3勺(150g)/箱） ③ずんぐり苗（25日苗、3葉苗）
- ①緑肥レンゲのすきこみ ②土壌改良資材の投入 ③深耕 ④稲わらのすきこみ
- ①減農薬栽培 ②減化学肥料栽培（緑肥レンゲ、有機入り肥料）
- ①レンゲすきこみ量・生育に応じた施肥 ②適期収穫 ③適正な乾燥・調製
- ①植え付け株数60株/坪 ②早期地干し、中干しの徹底 ③気象変動に対応した管理

人と自然の架け橋に。
JAにじ



『化学合成農薬使用回数10成分以内』『化学肥料施肥量(窒素成分)4.25kg/10a以下』

月・旬	生育	主 な 作 業
5月	上 育苗期	・レンゲすきこみ ・温湯消毒
	中	・播種 ・土壌改良資材投入 ケイカル、ミネラルG、とれ太郎、 珪酸カリ、ホスピタ
	下	・基肥 ・耕起、代かき
6月	上 移植期	・育苗箱施薬(ブーンゼクテラ箱粒剤 又は、ブイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤)
	中 活着期	・移植 ・浅水管理 ・除草剤散布
	下 有効分けつ期	・間断かん水 (地干しによりガス抜きをする)
7月	上	
	中 無効分けつ期	・中干し (茎数20本／株から)
	下	・湛水
8月	上 幼穂形成期	・穂肥 (出穂20～18日前)
	中	・間断かん水
	下 出穂期	
9月	上 登熟期	・スタークル粉剤DL 又は、 スタークル顆粒水溶剤
	中	・落水
	下	
10月	上 成熟期	・収穫 ・乾燥 ・調製
	中	
	下	・耕起 ・レンゲ播種

品 種 特 性

移植時期 月・日	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	耐倒 伏性	穂発 芽性	外観 品質	食味	10a当 玄米重 kg/10a	耐病性	
5・28～6・4	8・20	9・27	85	19.0	350	やや弱	難	上の中	上の中	480	いもち	白葉枯
											やや弱	やや弱

レンゲすき込み量の目安

- ①レンゲ草4kgの場合 → 4トン
- ②レンゲ草3kgの場合 → 3トン
- ③レンゲ草2kgの場合 → 2トン

1m×1mのレンゲ草の地上部の生草重量(4月中下旬)



温 湯 消 毒

- ①温湯消毒後、直ちに播種しない場合は、粉を水分15%以下の乾燥状態にした後、通気性の良い冷暗所で保管すること。
- ②温湯消毒後は、病原菌が付着しないように十分注意すること。

施 肥 基 準

◎有機エムコート256を施用する場合は、穂肥は施用しない。(化成分は4.25以内に抑える)
(10a当たり施用量)

土 壌 改 良 材	4月中下旬の生育量と生え具合 (10a地上部生重)	基 肥 有機エムコート256 (12-5-6)	穂 肥	窒 素 成 分	
				全窒素量	うち化成分
ケイカル又は 粒状ミネラルG 200kg 又は とれ太郎 60kg 又は 珪酸カリ 40kg 又は ホスピタ 40kg	生育旺盛、均一にびっしり(4トン以上)	40kg	――	4.8	2.4
	生育旺盛、均一(3トン)	50kg		6.0	3.0
	生育中程度、7割生え(2トン)	60kg		7.2	3.6
	4月中下旬の生育量と生え具合 (10a地上部生重)	基 肥 スーパーユーキくん1号 (10-8-8)	穂 肥 スーパーユーキくん3号 (10-3-8)	窒 素 成 分	
	生育旺盛、均一にびっしり(4トン以上)	20kg	8月1日頃 30kg	5.0	2.45
	生育旺盛、均一(3トン)	30kg		6.0	2.94
	生育中程度、7割生え(2トン)	40kg		7.0	3.43

- 注1) 基肥はレンゲすきこみを移植前30～20日前にした場合です。
- 2) 窒素成分には、レンゲ草の窒素分は含んでいません。

除草剤使用基準

除草剤使用はいずれかの1剤を1回以内とします！

選択例	除 草 剤 名	成分数	10a当たり 使 用 量	使 用 適 期 (移植後日数)	効果のある ノビエ葉齢	留 意 点
1	ゼータプラスフロアブル	2	500ml	3～12日	4.0葉まで	畦畔から散布する場合には、ノビエ3.0葉期までに使用する。
2	ゼータプラス1キロ粒剤	2	1 kg	0～12日	4.0葉まで	クログワイ・オモダカは、発生前～発生始期までに使用する。
3	ゼータプラスジャンボ	2	10パック	3～12日	4.0葉まで	セリは、再生前～再生始期までに使用する。

病害虫防除基準

基本防除は下記資材を適期に使用！

	農 薬 名	成分数	使 用 量	防除適期	留 意 点
基本	ブーンゼクテラ箱粒剤 又は、ブイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤	3	育 苗 箱 1箱当たり50g	田植3日前～ 田植前日	・1箱当たりの使用量が少なすぎると効果が落ちる。 ・散布後はかん水し、剤を落ち着かせる。
補正	スクミンベイト3	0	2～4kg	田植直後	・ジャンボタニシによる食害を防ぐ。
補正	オリゼメート粒剤	1	3～4kg/10a	出穂3～4週間前	・白葉枯病の常発地は防除する。
補正	ノンプラスバリダ粉剤DL 又は、ノンプラスバリダフロアブル	2	3～4kg/10a 1,000倍 100ℓ/10a	出穂直前 収穫14日前まで	・いもち病発生初期や紋枯病による収穫減を防ぐ。
基本	スタークル粉剤DL 又は、スタークル顆粒水溶剤	1	3kg/10a 2,000倍 100ℓ/10a	穂ぞろい期の 7～10日後	・ミナミアオカメムシに効果がある。

注1) 箱施薬は、田植3日前～田植前日。(効果を安定させるため、できるだけ前日までに散布する。)なお、散布後は茎葉に付着した薬剤を床土に落とした後に水をかける。

2) カメムシ対策として出穂14日前までに畦草刈りは実施します。

れんげ米は特別栽培米であり、農薬の成分数は、最高で10成分以内しか使用できませんので、ご注意ください。

農薬の登録は、随時変更されています。農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認しましょう！

《レンゲ栽培のポイント》

1. 目 的
- ①地力増進・環境保全型稲作 ②景観向上 ③コストの低減 ④養蜂支援 ⑤米販売促進
2. レンゲの生育を良くする秘訣
- ①土壌 pHが5.2以下(酸性)の田は石灰質資材を散布する ②耕起は均平に行う
- ③排水不良田は排水溝をつくる
3. レンゲの播種
- ①播種時期……原則、稲刈り後、耕起し、播種する。(10月中旬～下旬)
- 播種は耕起してすぐか、すぐ播種ができない時は、雨が降る前日又は雨が降った翌日に行う。
- 稲の立毛中に播種の場合は刈り取り前15日～稲刈り直前までに(播種量3割増)。
- レンゲ連作は場で播種時期を早くすると、すき込む前に害虫に食べられてしまうので、11月に播く。
- ②播 種 量……10a当たり3kg(1㎡当たり3g)
- ③播種方法……稲刈り後播種は、ロータリーで浅耕した後に散粒機又は手で播種する。軽く鎮圧すると発芽が良くなる。
4. レンゲのすきこみ
- ①レンゲのすきこみ時期……田植えの30～20日前が最適期。4月下旬～5月上旬頃の花の満開直前～田植え2週間前。
- ②すきこみ後、レンゲの分解のため最低1週間は田に水を入れないよう注意。

この栽培暦は、JA米の生産基準を兼ねています。栽培履歴報告書に記入漏れや間違いがないか確認しましょう。JA米とそれ以外を区分してJAに出荷しましょう。

J A に じ 管 内 農 業 振 興 協 議 会

久留米市田主丸町産業振興課
☎ 72 - 2111

J A に じ 営 農 部
☎ 75 - 4200

JAにじ営農センター田主丸
☎ 72 - 1150

久留米普及指導センター
☎ 0942 - 47 - 5101

令和6年12月作成